

## 令和 7 年度 (2025-2026) 4 月商工会常任委員会 議事録

日 時：2026 年 4 月 15 日 (水) 13:00-13:50  
会 場：三水会センター会議室  
出席者：37 名 (代理委任 4 名、会長委任 78 名)  
司 会：東 遼佑 幹事

### 1. 商工会会長連絡 (遠藤 宏治 会長)

遠藤会長より、3 月末にヒューストンへ着任し、川上前会長の後任として 4 月よりヒューストン日本商工会会長を務めることとなった旨の挨拶があった。ヒューストンは初めての駐在であり、商工会のさらなる発展に貢献すべく尽力していきたいとの抱負が述べられた。

新年度を迎え、当地では日本人補習校の入園式・入学式などが行われ、新たなスタートの時期を迎えていることが共有された。当地で活動する日本企業においても、新体制のもとでの取り組みが本格化しているとの認識が示された。

先月はロデオや CERAWEEK をはじめとする各種行事が開催され、ヒューストン全体に活気が感じられる時期であったことに言及があった。遠藤会長自身は行事終了後の着任であったものの、当地の魅力やビジネスの活気を象徴する行事であるとの所感が述べられた。

足元の国際情勢については、中東地域を中心に地政学的緊張が継続しており、イランを巡る動向やホルムズ海峡の閉鎖懸念等が、原油価格を含むエネルギー市場に影響を及ぼしているとの説明があった。これにより、エネルギー産業に限らず、幅広い業種でコスト増やインフレの進行、生産低下・停止といった影響が生じているとの認識が示された。

米国経済については不透明な状況が続いている一方、AI の普及拡大を背景に、データセンターを中心としたインフラ投資が進展しており、電力需要増加への対応として系統電力の増強や独自電源確保の動きが進んでいるとの説明があった。こうした動きは、当地のエネルギー・インフラ産業において今後の事業機会につながり得る重要な動向であるとの認識が示された。

このように、リスク要因が存在する一方で、新たな事業機会も生まれている現状を踏まえ、会員企業においては、日頃の会員同士の交流や情報交換を活用しながら、リスクと機会の双方を見極めていくことが重要であるとの考えが示された。こうした取り組みが、当地における日本企業全体の発展およびコミュニティの活性化につながることへの期待が述べられた。

最後に、4 月 12 日に開催予定であったピクニックについて、雨天のため 4 月 19 日 (日) に順延となった旨の連絡があり、改めて参加を呼びかけたいとの案内があった。

## 2. 総領事館連絡（花澤 光樹 首席領事）

花澤首席領事より、4月9日から10日にかけて塩田鹿児島県知事がヒューストンに来訪し、同県産品の販路拡大を目的としたトップセールスを実施したとの報告があった。鹿児島県はテキサス州市場を重視しており、和牛・ブリ・茶に加えて、今後はウナギやかつお節などへの品目拡大を検討しているとの説明があった。

移民政策に関して、テキサス州は州政府主導でICEに協力的である一方、移民人口が多いヒューストン市は協力的に抑制的であるとして、両者の姿勢の違いが説明された。4月8日に同市が条例改正を可決したことを受け、州政府は4月13日、警察・消防向け補助金約1億1千万ドルの交付停止を通告したとの報告があった。州と市の対立が長期化した場合、治安維持、災害対応、ワールドカップ対応等への影響が懸念されており、情勢を注視する必要があるとの認識が示された。

テキサス州の経済成長および日本企業の活動拡大を背景として、在ヒューストン総領事館の業務も増加傾向が続いており、今秋から経済班の本官が1名から2名体制へ増員される予定であることが報告された。また、日本企業支援および領事サービス拡充のため、中長期的な視点で館の体制整備に取り組んでいくとの方針が示された。

## 3. 幹事報告（東 遼佑 幹事）

### 理事委員の交代について【承認事項】

人事異動等に伴う理事役員の交代について説明があり、常任委員会として承認された。

### 商工会事務局体制について

事務局体制について報告があり、現在事務局長が不在のため、幹事、会計幹事および企画調査委員長による代行体制で対応する旨が3月理事委員会にて承認されている旨が説明された。そのほか、事務局運営における規程等の不備に関する指摘を踏まえて、利益相反・決裁権限規定等について、5月の理事委員会を目的に整備を進める予定であることが共有された。

## 5. 他団体対応・日本庭園関連報告（坂本 滋 特命理事、代読：東 遼佑 幹事）

ヒューストン・ハーマンパーク日本庭園の修復・改善計画について報告があった。開園30周年を機に、中島健氏のオリジナルデザインを復元する大規模な修復計画が進行中であること、本年より、造園家・辻井博行氏がアドバイザーとして就任し、庭園メンテナンスおよび現地スタッフへの技術指導を担当していることが報告された。辻井氏らは、2月下旬から3月上旬にかけて来米し、修復箇所調査および技術指導を実施、歓迎レセプションも開催された。今後も計画的に修復を進める予定であることが報告された。

## 6. 委員会報告

### ① 企画・調査委員会（島田 英樹 委員長）

4月定例講演会の開催概要について案内があった。

### ② 文化委員会（ピクニック幹事：嶋田 暢一正会員）

ピクニック 2026 の開催準備状況について報告があり、雨天により 4月 19日（日）へ順延となった旨の説明があった。参加予定人数は約 900 名であり、引き続き協力をお願いしたいとの案内があった。

### ③ ソフトボール委員会（藤井 英一郎 委員長）

ソフトボール大会 2026 の準備進捗について報告があった。

### ④ ゴルフ委員会（堤 直己 委員長）

テキサス会ゴルフの開催予定および参加募集状況について報告があった。

### ⑤ 生活情報委員会報告（根本 真樹子 委員長）

本年度第一回目となる古本市を開催し、来場者数 254 名、収益は寄付を含め 673 ドルであったことが報告された。次回は 8 月後半の開催を検討しており、書籍寄付への協力を呼びかけたいとの案内があった。あわせて、バック・トゥ・スクールセミナーを新学期前後に計 2 回開催予定であることが報告された。

## 7. 事務局連絡

会員動向について報告があり、詳細は会員専用ページを参照するよう案内があった。

## 8. その他

特に発言はなかった。